



茅ヶ崎市記者発表資料
2026年4月28日
こども育成部保育課 課長 西山和志
電話0467(82)1111 内線 2159

“初”2年連続待機児童数ゼロを達成

2025年4月に続き、市内保育園の待機児童がゼロとなり、本市で初めて2年連続待機児童ゼロを達成しました。

2026年4月に向けては、小規模保育事業の新設などにより121人分の定員増を図るとともに、保育士確保対策にも取り組みました。申請者数は前年と比べ15人増加したものの、結果として保留児童は減少し、待機児童はゼロになりました。

しかしながら、保留児童は296人おり、また、今後も申請者が多い状況が続くと見込まれることから、待機児童ゼロの継続に向けた取り組みを引き続き推進します。

1 市内保育所等数、入園数、待機児童数等の状況(各年4月1日現在)

区分	2024年	2025年	2026年	前年比
就学前児童数(A)	10,550	10,195	9,891	▲304
申請者数(B)	5,279	5,252	5,267	15
保育需要率(B/A)	50.0%	51.5%	53.3%	1.8%
保育所等数(※1)	76	81	83	2
定員数	4,613	4,815	4,936	121
入園数(C)	4,910	4,945	4,971	26
保留児童数(D)=(B)-(C)(※2)	369	307	296	▲11
預かり保育を実施している幼稚園を利用①	54	68	71	3
企業主導型保育事業を利用②	11	9	12	3
求職活動を休止している③	21	23	17	▲6
特定の保育所等を希望している④	139	104	106	2
育児休業の延長を希望⑤	135	103	90	▲13
待機児童数(E)=(D)-(①~⑤)	9	0	0	0

(※1)保育所等数は、小規模保育事業等の地域型保育事業と認定こども園を含む。

(※2)保留児童数は、実際に入園できていない総数。待機児童数は、保留児童のうち、こども家庭庁の基準による数。

2 待機児童等の分析

待機児童ゼロを達成できた要因としては、定員数の増加が挙げられます。新たな施設として小規模保育事業を2園整備するなど施設整備により受け皿を拡大したことで、121人の定員数を増やすことができました。

一方で、昨年に引き続き、定員数の増に比べて入園数の増がやや少ないことが特徴となっています。これは、既存施設での保育士確保が厳しい状況となっており、既存施設の入園数が昨年よりも74人減少していることが要因と考えられます。また、3歳から5歳クラスで定員増となった部分については既に他の保育園・幼稚園に入園している児童が多く、1年目は埋まらない傾向であることも要因として考えられます。

今後も、施設整備による定員増だけでなく、保育士確保にさらに力を入れていく必要があります。

3 2026年度の主な対策

共働き世帯の増加などにより、2026年度も申請者が多い状況が続くことが見込まれます。

待機児童は0人となりましたが、保留児童は多数存在していることから、施設整備による受け皿の拡大を引き続き実施します。

また、2026年度も慢性的な保育士不足の状況に加えて、新たな施設整備に伴い保育士不足が加速することが予想されます。2026年4月から始まった「こども誰でも通園制度」でも、さらに保育士が必要となります。そのため、以前から実施している保育士確保対策を進めつつ、新たな取り組みも行ってまいります。

施設整備

施設整備

2027年4月も待機児童0人を継続するために2施設分(約120人分)の整備予算を2026年度当初予算で計上しています。整備については、新規小規模保育事業の設置・小規模保育事業の認可保育所化などを予定しています。

申請数の増加に対応した施設整備

今後も当面は申請数の変化や地域偏在を注視しつつ、保育ニーズの増加に対応できる量の受け皿整備を行います。

保育士確保

ちがさき保育士就職相談会

保育士と市内保育所等のマッチングを図る(年3回開催予定)

茅ヶ崎市保育士就職奨励金

茅ヶ崎市内の保育所等へ就労した保育士に、2年間で最大20万円を支給

保育士宿舍借り上げ支援事業

保育士の宿舍借り上げを行う事業者に対して、家賃補助を行うもの

保育士バンク事業

登録者へ保育士求人情報等をメールマガジン形式で配信

(新)保育士の離職防止や働きがい向上を目的とした連携協定の締結

一般社団法人日本リテンション・マネジメント普及協会との協定(2025年8月締結)をもとに、協会が持つ人材定着支援の知見を活用して、保育現場の環境改善と持続可能な人材確保に取り組みます。